



次世代プロテオミクスが拓くライフサイエンスの新地平 ヒトタンパク質の完全定量技術(iMPAQT法)の実践とその応用

日時:2020年**2月20日**(木)**13:30~15:30**(個別相談15:30~17:00)

会場:日本橋ライフサイエンスビル 9階 913会議室(東京都中央区日本橋本町2-3-11)

初めてヒトゲノム解読がなされてから約15年近く経つが、それでも生命の基本作動原理の理解には遠く及ばないのが現状である。その最大の理由は、細胞活動の直接の機能分子が核酸(DNA/RNA)ではなく「**タンパク質**」であるからである。多くの研究者はタンパク質の性質の解明には力を注いでいるものの、精密なタンパク質定量は数理学の導入にとって必須である。我々は、全てのタンパク質を絶対定量するため、高速ターゲットプロテオミクスで短時間に多数のタンパク質の絶対定量を可能にする技術(**in vitro proteome-assisted MRM for Protein Absolute Quantification: iMPAQT**)という方法を開発した。

本セミナーでは、iMPAQTの原理や開発の経緯、さらには応用例などを挙げて、今後の生命科学がタンパク質の網羅的計測の時代に入ること強調したい。

プログラム

13:30~14:15

次世代プロテオミクス「iMPAQT」による全タンパク質の絶対定量法の開発と応用 中山 敬一

14:15~15:00

iMPAQT法による解析事例 中山 敬一

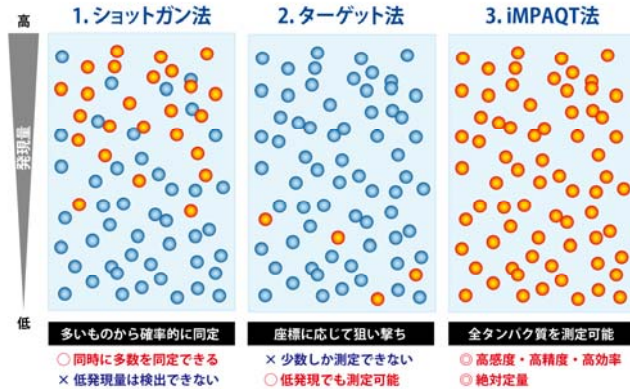
15:10~15:30

iMPAQT法の実用化に向けた技術開発と事業展開
吉岡 進

15:30~17:00

個別相談

iMPAQT 法と従来法の比較



講師プロフィール



中山 敬一 (九州大学 生体防御医学研究所 分子医科学 主幹教授
九州大学 ヒトプロテオーム研究センター センター長)

1986年 東京医科歯科大学・医学部卒。順天堂大学・大学院医学研究科を経て、1990~1995年に米国セントルイスのワシントン大学・医学部ハワードヒューズ研究所に留学。帰国後日本ロシュ研究所生物学部・主幹研究員を経て、1996年より九州大学生体防御医学研究所・教授。2009年より同・主幹教授(ヒトプロテオーム研究センター・センター長を兼任)。



吉岡 進 (株式会社LSIメディエンス 検査統括部 メディカルソリューション推進部
九州プロサーチ有限責任事業組合 研究支援部)

2012年 三菱化学メディエンス株式会社(現株式会社LSIメディエンス)・研究開発部門入社。2014年より九州大学生体防御医学研究所プロテオミクス分野に勤務。iMPAQT法実用化に向けた開発に従事する。

【申込先】 : 九州大学日本橋サテライト 電話 : 080-3362-5427 E-mail : n-satellite@airimaq.kyushu-u.ac.jp

【申込方法】 : 電子メールでお申込ください

件名を「第7回九州大学日本橋サテライトセミナー申込」とし、本文中に企業名、部署、役職、氏名、電話番号、メールアドレス、個別相談の希望の有無(※希望の場合、講師名と相談内容)を明記ください。